

〔放送トランスクリプト〕

1959 年皇太子ご成婚パレード, NHK 実況中継

森 暢平

1959 年 4 月 10 日の明仁皇太子と正田美智子の結婚によって、テレビ受像機が普及した。前年 5 月の受信契約数は 100 万件であったが、結婚式の 1 週間前の 4 月 3 日には 2 倍の 200 万件になっていた。式当日のメインイベントは、午後 2 時半から 3 時 20 分までの 50 分間の馬車パレードである（皇居から、渋谷区常磐松にあった東宮仮御所まで 8.8 キロメートル）。パレードは、荘厳な馬車列とすることで、メディア映りを意識した。戦後日本の最大級のメディアイベントと言ってよいだろう。当時のテレビ放送は、現在も回顧番組のなかで一部が取り上げられることはあるが、全体を通して、どのような放送だったのかについて紹介するものはない。

筆者を代表とする研究グループは、NHK アーカイブスの学術利用「トライアル研究Ⅱ第 3 期分」（2013 年 9 月から翌 3 月）に、「皇室取材をめぐるポリティクス—美智子妃ブームとその後の展開」をテーマに応募し、採択された。恋愛や平民性を強調し、大衆に華やかな結婚式を見せたいマスメディアと、その方向性には一部同調するものの皇室の尊厳を損なわない範囲で、という前提を守ろうとする宮内庁との力関係の分析を目指したものである。

今回はその分析の前にまず、パレードではどのような内容が放送されたのかについて、NHK が保有する当時の放送を収めた DVD を視聴し、放

送内容すべての文字起こしを行ってみた。放送の歴史のうえで重要な放送であるから、その全容を紹介しようとする試みである。



分析して判明したことは、いわゆる投石事件について NHK のカメラ位置からははっきりと映っておらず、アナウンスも事件にはまったく触れていないことなどである。ただ、ここでは分析の詳細に踏み込まず、放送内容の紹介にとどめる。

放送時間は午後 1 時 50 分から 3 時 40 分までの 1 時間 50 分（ただし、同時録画 DVD には冒頭の約 10 分間は収録されていない）。スタジオ司会者は慶応大学教授の池田弥三郎。クイズバラエティ番組「私だけが知っている」などに出演し、タレント教授のはしりとなった人物である。この池田が、パレードの前は、元東宮侍医の緒方安雄、元東宮侍従の岡本愛祐を相手に、皇太子とのエピソードを聞き、場を盛り上げた。その後、アナウンサーたちが、区間ごとにリレー方式で実況を行う。途中、皇太子夫妻とほぼ同世代である中村メイコ・神津善行夫妻が沿道ゲストとなり、目の前を通り過ぎていくパレードを見ながら感想を述べる場面などが挿入されている。馬車が東宮仮御所に到着した後は再びスタジオに戻り、緒方だけが退き、新たに評論家・作家の三宅艶子が入り、池田、岡本と 3 人でトークを続け、番組は終了する。とくに、緒方、岡本は、天皇、皇太子がいかに家庭の情愛の中で生活しているかを強調し、池田と

三宅は皇室が変わることへの期待を述べているのが特徴的である。

なお文中の〇〇は、どうしても聞き取れなかった言葉を指し、〔 〕のなかは筆者による補足、

……は余韻である。映像のキャプチャー写真はNHK アーカイブスから提供を受けた。

<p>字幕 皇太子殿下御結婚祝賀特集 音楽 ワーグナー「ニュルンベルクのマイスタージンガーより第1幕への前奏曲」 字幕 馬車列沿道実況中継 字幕 実況場所 皇居、宮内庁玄関 二重橋 皇居前広場 字幕 警視庁前 半蔵門 四谷見附 四谷三丁目 字幕 信濃町 明治神宮外苑 青山六丁目 東宮仮御所 字幕 出席 山王病院小児科医長 緒方安雄 元東宮侍従 岡本愛祐 評論家 三宅艶子 慶応大学教授 池田弥三郎 字幕 沿道ゲスト 神津善行 中村メイコ夫妻（信濃町） 横浜国立大学講師 A・J・ヘルバート夫妻</p>	
<p>スタジオに男性3人、左から池田弥三郎、緒方安雄、岡本愛祐</p>	<p>〔番組の冒頭は録画されていない〕 池田：……なるだろうと思いますね。これはしかしテレビが中にももちろん入れませんので、どういう所が映りますか。</p>
<p>宮内庁庁舎前の映像 字幕 皇居</p> 	<p>池田：宮内庁の前には確かNHKのカメラが入ってると思いましたけど、ここが宮内庁の前でございませぬ。 岡本：これは泉水の所ですね。ええそうです。宮内庁の正面玄関の所です。 池田：ここはもとの江戸城の西丸、西丸でございませぬ。 岡本：西丸口ですね。入口ですね、西丸への。向こうに見えてるのが富士見櫓。これは天守閣の代理をした櫓。ご承知の通り天守閣は早く焼けてね、徳川時代に、のちには建たなかったんですね。あの櫓が天守閣の代理をしておった。 池田：呉竹寮が本丸跡にあって、綾綺殿が西丸になるわけでございますね。賢所は西丸……。 岡本：賢所は西丸っていうより吹上の隅ですね。 池田：ああそうでございますか。だいぶ距離がございませぬ。 岡本：ええ道灌濠を越えてますからね。だいぶ距離がございませぬ。しかしお歩きになれば大したことありません。車だと大回りになります。 池田：ああそうでございますか。今ちょうど朝見の儀が行われている時だろうと思います。緒方さん、皇太子さまといろんなお話がございませぬでしょうか、ぼつぼつお漏らしていただけたらと思います。 緒方：じゃ、お小さい時からの。実に思い出ばかり感慨、胸に迫ってるんですがね。今日こういう儀式をなされるについて思い出しますのはね、いつでしたか、学校へお入りになってすぐの時だったと思いますが、今の国立競技場、神宮競技場ですね、前の。そこで小学校だけですか、あるいは、中学校も含んでおりましたか、何か学生の競技会がありましてね。そこへ初めて公の場所へお出になるというわけで、お出になったわけですね。何しろまだ1年生ですから、長い間座っていらっしやれないわけですね。すぐに姿勢が崩れてましてね、グニャグニャってなさるんでね。そこでこんだ侍従長になりました山田君がね、ちょうど傳育官で、お育て役をしていたわけなんです、時々後ろを座っている所に出かけましてね、今プログラムはここを行ってるんだというようなことを説明するようなふうをいきましてね。</p>
<p>宮内庁庁舎前の映像 たむろす報道陣</p>	<p>緒方：そして、何だかんだ言いながら後ろにまわりましてね、上着の裾を引っ張りましてね、「殿下しっかり」なんて言うんですよ。それでね、そうするとまた、殿下ピンとなさるんで、またそのうちにグニャグニャとなさるんでね。今はもうそんなこと</p>

	<p>……、山田君ね、おそらくこんだ行列のあとから馬車でお付きして、きっとそういうこと考えながら、感慨無量だと思いますね、それからね……。</p>
宮内庁序舎前の映像 準備をする宮内庁職員	<p>池田：今これは何でございますか。岡本さん、ここの所は、陛下は中に、3階にいらっしやるわけでございますね。</p> <p>岡本：ええそうです。これはお出ましの時の玄関の準備をしているところですね。</p> <p>池田：あそこまでは報道関係の、皇室関係の記者の方は自由に入れるわけですね。</p> <p>岡本：入れます、と思いますがね。</p> <p>池田：この建物で申しますと、朝見の儀の行われているのは、この辺でございますか。</p> <p>岡本：もっと奥です。これは正面ですからね。もっと奥になります。しかし、〇〇でやったことは間違いありません。</p> <p>池田：陛下と、両陛下と、それから両殿下のほかにはどういう方々が……。</p>
再びスタジオ、3人の場面 	<p>岡本：侍従長ですね。それから陛下の侍従長、皇后陛下の女官長、それから当番の侍従、女官ですね。それから、両殿下の東宮侍従長とか、侍従、女官、東宮女官長、女官が下に入ってるわけです。式部官がおりますね。</p> <p>池田：この行列、侍医の方は……。先生はあれでございますか。</p> <p>緒方：侍医っていうのはよく「何だ、医者がこういう行列の時に供してってどんな意味があるんだ」ってなことを言う方もありますが、ひとつの形式の内の一員なんですね。とにかく飾りみたいにしてくっついて行くんですね。ですから、今日の行列もおそらく、侍医が乗っていると思いますがね。</p> <p>池田：2台目の馬車にお乗りになっている。</p> <p>緒方：これは途中なんかお悪くなってその時に応急手当をしてって、そんな意味じゃないんですね。</p> <p>池田：鹵簿の1つ……。</p> <p>緒方：鹵簿の1つの形式ですね。</p> <p>池田：先ほどせっかく思い出話が出まして途中で話が折れました、切れましたけれども、何かまたおありになって……。</p> <p>緒方：それからね、少し成長なすって、馬にお乗りになるっていうわけですね。その時我々も歳とってたんですけれど、一緒に馬に乗らなきゃいけないってんで練習させられてましてね。歳とってから馬に乗るのは怖いもんですね。それがね、殿下、夜なんか私当番の時なんかあれですね。ちょうど普通の家庭で父親が子供乗せて馬になってやりますね。殿下がね、「馬になれ」っておっしゃるんですよ。私、体が大きいもんですから、「よろしい」っていうわけで馬になって、そうするとちょうどね駈歩〔かけあし〕、「左手前なんとか」って言いますね。「左手前駈歩」ってね。</p> <p>池田：こうまわるわけですね。</p> <p>緒方：馬がこう首をちょっと向きましてね、右の拍車でボンとすると、パッとこう出るんですね。それを実際になさるんですよ、ドンと。とっても〔痛くて……笑〕。そういうことからだんだん馬もお上手になりましたしね。</p> <p>緒方：それから終戦後、バイニングさんが来られて、先生になられたわけですね。小金井のもう汚らしい教室で風が吹き込むような教室だったですが、その時に山田侍従の甥になるのがいましてね、私も親しくしていたもんだから。ある日ね、「緒方さん」って言うんです。「何だ」って言いましたらね、「今日おもしろいことがあったんだ」「何だ」って言ったら、バイニングさん来られて皆子供に、スミスとか、ジョンとか、何とかっていう名前を付けてですね、それを呼びながらいろんなことをさせられたわけでしょう。殿下にジョニーですかね、今日ジョニーって名前をお付けになって「ジョニー何とか」と言われたって言うんです。そして殿下ブツと立ってね。もちろん英語ですが「私はジョニーじゃない。私はクラウン・プリンスだ」と言われた。「ほくは気持ち良かったよ」と言うんですね、その子供がね。何しろまだ終戦後ママ歩きですし、子供ながらも、このアメリカの人が来てそういうアメリカの名前を我々に付けるっていうことも何か心良からず思っていたとこに、殿下がそうおっしゃったん</p>

で、とても愉快になって、そう言ったんでしょうがね。我々ね「そうか殿下はやはり皇太子としての抱負を持っていらっしゃるぞ」なんてね、喜んだことも……。

池田：あの岡本さん、今の皇太子とは別に……。

岡本：私はね、昭和9年の4月までですね、侍従を、今の陛下の侍従をしておりましたが、ご誕生の時はですね、8年12月ですかね、やはりおったわけです。公告事務官も私、兼務しておりましたから、ご誕生のほうの係でしてね。それまでお生まれになる方全部内親王だったもんですからね、待望しておったんですよ。いよいよですね、こんだ。皇太子殿下がお生まれになったということで、喜びましてね。私、乾杯係を引き受けたんですよ。どんどんどんどん喜びが上がりますからね、大臣やなんか、そのたびに乾杯ですわ。それでね、10何杯まで覚えてますがね、もう参りましてね、ひとつばかり今でもですね、両陛下お笑いになるんですけどね、すっかり参っちゃった〔笑〕。

池田：あのころ、あれでしたね。初めてお子さまがお生まれになる時に、大砲で知らせましてね。我々覚えていますが、1発だったら男のお子さんで、2発だとすれば女のお子さんだ。皇太子の時は、それは出しませんでしたでしょうね。

岡本：出しましたね。

池田：あっ、やったんですか。そうでしたか。ずいぶん長く男のお子さんを皆んなお待ちしていましたね。

岡本：お待ちしておったんですが……。

池田：長い間あれでございますか。緒方さん、それで、その後は。

緒方：その後中学の2年におなりになった夏までお勤めしてたんです。私、小児科の医者なもんですからね。もう小児科の範囲は無事にお仕えて、いよいよというわけですね、殿下にそっとしてたんですが、何か、亡くなった大宮さまがね、皇太后さまが何かおっしゃったらしいんで、何か変な顔してらっしゃいました。まことに私もつらかったんですけどね、そのうちにね、「それじゃひと月に、毎月1回ごとにやって来い」っておっしゃるんですからね。よく今の常磐松御殿へ参ったです。しかしこのごろはもう公の仕事が多くおなりになりましたしね、こちらで怠けるようなことにもなっちゃって。しかし時々参りますと喜んでいただいてとってもお懐かしく思いますね。

池田：緒方さん、あとでゆっくりお話をうかがえないから少し皇太子さまの、殿下の将来とか、そういうようなことも少しうかがいたいと思います。

緒方：あのね、今はいろんな方がいろんな希望をおっしゃるでしょ。だから私ね、殿下に対してね、「殿下、今、ラジオの音波がビビッ、ビビッ、ビビッって鳴ってるけど決してね、それを一つひとつにね、気にしてね、お合washになる必要ないですよ、ダイヤルをね。もう少し落ち着いて、本当にビー、ビーッと1つか2つ鳴った時にダイヤルをお回しになってね、それをお聞きになれば」ということを申し上げたい気持ちなんですけどね。それでね、それで、したがって、私もそんなに特別な希望というあれですが……。とにかく今ご新婚の時、ほんとにね、この2人の今、生活をお楽しみになっていただければ、おのずから、そっからいろんな自然に皇太子、および皇太子妃殿下としてのいろんな、ほんとうの体臭がにじみ出るんじゃないかと思ひましてね。私ね、皇太子さまご存知のように、どちらかというところ少し冷たいような感じがありでしょ。とくに外向きの時はね。今度は、きっと妃殿下をお迎えになったら、あれはね、暖かくなるんじゃないかと私それを楽しみにしているんですよ。ほんとうに暖かい気持ちの青年になられてですね。ただ人と接しただけで、ポーッとした暖かみを人に与えるような青年にきとおなりになると思って。それを私、非常に期待しているわけで。これまでどちらかと申しますとね、ちょっと冷たいようなお感じなところもありましたけどね。

池田：やっぱり身構えなさる……。

緒方：身構えなさる。それは無理もない。

池田：ご無理もない。

緒方：しかし中じゃ、ずいぶん、もう……。今度、侍従長になった山田君もいろんな無茶なことを言いますし、私も無茶なことを言いましてね、殿下に申し上げて、こともありまして、中じゃそんなに、ただ外で皆こう最敬礼いたしますよね、お供の人も、あれも御所の中で皆してるのかと思って、ほかの方、思ってたのかもしれない、それはもう大間違いでね。ただ、あれはやはり1つの形式としてのジェスチャーですからね。御殿の中であんなことしたら、お互いにやりきれませんし、だからその点は心配も何もないんですが、きっといい家庭をおつくりになると思いますね。

池田：皇太子さま、今の皇太子殿下は帝王学を何するためにお1人でご両親、両陛下と離れた形になりましたですね、あれはどうでございますか、何か今度は、ご自分の場合は……。

緒方：それはもう確かに、宮城〔きゅうじょう〕じゃ、岡本さん、あれですかね、政治と家庭生活とごっちゃでございますからね、だいたいね。



岡本：あのね、これ、非常にね、世間に誤解があるように私思うんですけどね。今の陛下のお考え方っていうのは、子供はですね、自分の手で育てるんだと、でね、子供の愛情っていうものを体験しない者がですな、国民に対する愛情っていうものはね、ほんととは分かりやしないだろうと思う。だから自分は、手で子供を育てたいというご宗旨だったんです。それで、照宮さまはじめですね、学齢まではお手元で育ててになったと、その学校にお通いになりますにつけてですね、呉竹寮、少し離れてますけどね、あそこにささやかなおうちをお建てしましてね。しかし毎日おいで、うちにおいでになったんですけど、ただ、皇太子殿下だけはですな、満3歳まではお手元で育ててになったわけですけど、これもね、いろいろ議論がありましてね、やはり学齢まではお手元でおしり通り育てすべきだという議論もあったんですけども、これだけは陛下のご宗旨が通りませんでね、それでまあ、外へお出になったということなんです。その点は陛下も、非常に残念がっておられたわけなんです。

緒方：しかし毎日日〔まいにちび、毎日晒日の意カ〕は、ほとんどご一緒になりますしね。それから、男気がなくて、その時から男の〔言い直し〕女の気がなくて、男の手ばかり育ててるんだってなこと間違っただけで伝えられておりますがね、伊地知さんっていう、女官さんで、これお母さん代わり、そのほか女官さんありまして、それから若い高等師範って申しますかその時、保母の学校を出た若いお嬢さん方2人、あるいは3人、お相手、出ておりましたしね。我々も、非常に子供に返ったような気持ちで、無茶苦茶と一緒に遊びましたこともありますしね。その点ね、世間で言っておられること、あんまりその孤独で男気、男ばかりで育ってらっしゃる、でもない、なかったですね。

岡本：それから池田さんね、こういうこともお聞きしたいんですがね、陛下のご家庭ですね、今の陛下の、皇太子殿下ご時代からですね、実に暖かいご家庭なんですよ。奥の生活っていうのは、ご家庭生活ですからね。その奥のご生活におきましては実に暖かい、ああいうおとなしい、また情愛に深い陛下ですね。皇后陛下も久邇宮家っていうのは、父宮がね長く外国にいらした方ですから、のびのびとしたご性格ですしね。明るい方ですから、それがね清宮さまが一番よく似ていらっしゃると思います。今の皇后陛下のご気質に、それでもう、ご家庭生活をですね、非常に明るい楽しいご家庭でして、これがね、冷たいような、何か形式ばったね、ご家庭だと、冷たいというような感じを皆抱いているんですがね、決してそうじゃないですよ。

緒方：それは我々が日中ごとにお供してまいりましてね、ほんとうにドイツ語でゲーテファミリーエという言葉ありますね、ほんとうにいい家庭だって、そういう感じですよ。陛下なんかも、皇太子さん、その他ほかのお子さま方のために何でも、何でもしてやろうっていうようなお気持ちでね。ありありとそれは、うかがわれますですね。



池田：1つは何なんでございましょうね。今はたいへん、1つのブームでございましてね。週刊誌なんかたくさん出て、話題をそれからそれへ追求するから、いろんな話題が出ておりますけれども、もう1つあの……。


<p>宮内庁前 馬車が正面玄関へ</p>	<p>池田：これはもう今、もうそろそろ。 緒方：準備が……。 岡本：準備に、おまわしですね、おまわしたわけですね。 池田：もうそろそろそれじゃ、それに関わるわけです。沿道、沿道が、今度はかなり長いんで、ここからご出発になって8.8キロっていうんですが約2里あまり都内をずっとお通りになるわけですけど、約50分ぐらいかかるんですけども、前の時はそんなに、今の陛下の時は、もっと早かったわけですね。 岡本：あれはですね、自動車ですから。 池田：自動車でございましたね。 岡本：それは戦災でですね修理にお出しになってましてね、元の馬車を。 池田：震災で。 岡本：震災で、震災でですね、焼けたんですね。</p>
<p>字幕 馬車列沿道図</p> 	<p>池田：これずいぶんぐるとまわるようになってるんですがございますが、我々東京におります者は良く分かっているんですが、皇居からずっと祝田橋に出て、桜田門から三宅坂、ずっといい所、登りらしい登りが無い道を選んだんでございましょうかね、ずっと……。 緒方：そうらしいですね、坂があつて登りがあると馬車だから……。 池田：半蔵門まではほとんどわずかな登りですね、それから四谷見附、四谷3丁目、それから曲がって信濃町、神宮外苑、ずーっと平坦な道のようにですね。 岡本：この前の時は、あそこに三宅坂って書いてございますね、三宅坂から赤坂見附、それから弁慶橋の濠を通過して、赤坂見附……。 池田：前の時は、自動車だからあれですね、相当坂が……。あそこは登って下りる……。 岡本：まあ、付いてるものが馬ですからね、儀仗兵が弱ったんですよ。</p>
<p>再びスタジオ、3人の場面</p>	<p>池田：あの一。〔録画途切れる〕</p>
<p>字幕 宮内庁正面玄関</p> 	<p>アナウンサー：宮内庁正面玄関前でございます。この宮内庁3階にあります仮宮殿西の間で、ご両親陛下へのご挨拶を終えられました皇太子殿下ご夫妻は、これより報道関係者のために、この玄関前で記念撮影をされまして、これが済みましてから、馬車を召されて、東宮仮御所へお帰りになることになっております。 アナウンサー：今、皇太子殿下ご夫妻にはご両親陛下にお目にかかって、お礼の言葉を述べ、また、陛下からお祝いの言葉を賜る朝見の儀を終えられまして、ご両親、天皇、皇后両陛下と表三の間で記念の写真をお撮りになっているところかと思われます。</p>
<p>宮内庁正面玄関前で待機する馬車</p>	<p>アナウンサー：皇太子殿下ご夫妻がお乗りになります馬車でございます。6頭立て4頭引きの馬車でございます。</p>
<p>宮内庁正面玄関前と報道陣</p>	<p>アナウンサー：すでに玄関前には、内外各新聞通信社など報道関係のカメラマンが殿下ご夫妻のお出ましをお待ち申し上げております。 アナウンサー：皇太子殿下ご夫妻には、この玄関の階段を下りられまして、車寄せの手前に3段、段がございまして、その1番下までお下りになりまして、報道関係のための記念撮影をされることになっております。</p>
<p>待機する馬車</p>	<p>アナウンサー：すでに馬車の列は準備をまったく終わりまして、殿下のお出ましをお待ちするばかりでございます。 アナウンサー：記念撮影が済みまして、殿下ご夫妻は1度宮内庁の中へお入りになりまして、馬車が車寄せに着きますと、ここで初めてご乗車になりまして、それから、馬車の列が、宮内庁の前に丸池がございまして、その周りを1回りまわりまして、二重橋をわたって皇居前広場に達し、それから祝田橋・三宅橋・四谷見附・神宮外苑・青山6丁目などを経まして、全長8.8キロの間を祝福をお受けになりながら東宮仮御所へお帰りになることになっております。</p>



	アナウンサー：間もなく皇太子殿下、ならびに皇太子妃殿下、お出ましの時刻でございます。
皇太子、美智子妃、記念撮影 	アナウンサー：皇太子殿下、ならびに皇太子妃殿下がお出ましになりました。記念撮影でございます。燕尾服を召されました皇太子殿下は、大勲位菊花大綬章、ローブデコルテを召されました皇太子妃殿下は、テアラ、宝冠をいただき、勲一等宝冠章を着用されております。 アナウンサー：記念撮影を撮りますカメラマンだいたい100人以上はいると思われます。120、30人ぐらいカメラマンが丸池の前に集まりまして、フラッシュを焚いております。 アナウンサー：記念撮影を終えられまして、これからいよいよ馬車が車寄せに着きますと、これにご乗車になりまして、東宮仮御所へお帰りでございます。
馬車が、宮内庁庁舎玄関の車寄せへ	アナウンサー：殿下ご夫妻がお乗りになりますお馬車が車寄せへ着きました。溜塗りあずき色の馬車の横に燦然と菊のご紋章が輝いております。この馬車の列は、全長が139メートル、皇太子殿下ご夫妻がお乗りになりますオープンの儀装馬車と、お供の馬車2台、そのほか宮内庁、皇宮警察、警視庁の騎馬隊で編成されております。
夫妻が馬車に乗車、美智子妃のドレスの裾を、皇太子が気にする様子が一瞬映る。 	アナウンサー：殿下ご夫妻がお乗りになります6頭立て4頭引きの儀装馬車でございます。金色、黒、赤、まことに豪華な馬車でございます。この馬車の列は、露払いの2騎が先頭を切りましてその600メートルあとに、こうこくいん〔?〕2騎が、警視庁騎馬隊長を挟んで、進むことになっております。 アナウンサー：殿下ご夫妻のご乗車でございます。 アナウンサー：すでに先触れが出発いたしました。続いて露払いが歩み始めました。ご出発、東宮仮御所へお帰りでございます。 アナウンサー：いよいよ出発でございます。2時31分でございます。刻々スピードを増しましたこの金色、黒、赤、白など豪華な色彩に満ちました馬車の列は、皇居広庭を通りまして、皇居正門から二重橋へ出て、それから皇居前広場へ達し、国民の祝福を受けることになるわけでございます。馬車はただ今、宮内庁玄関前、丸池を1周するところでございます。 アナウンサー：馬車の列はこれから、皇居広庭を通過でございます。天皇誕生日、あるいはお正月に天皇、皇后両陛下がお祝い、ご挨拶をお受けになる広庭を通過いたします。
二重橋（鉄橋）を渡る馬車列	アナウンサー：すでに先頭のほうは間もなく二重橋へ掛かるところでございます。鉄橋に掛かるところでございます。今、馬車が通過しておりますこの広庭、広庭には、各皇族、正田家の方々、外交団・宮内庁職員・勤労奉仕団・皇宮警察本部職員、こういった方々が万歳をもってお喜びを申し上げております。殿下ご夫妻、たいへんにこやかに見送りの皇族方・外交団・正田家の方々・宮内庁職員の方々に、たいへんにこやかに会釈を送っていらっしゃいます。ご乗車はまもなく皇居正門を出まして、今、二重橋を通過するところでございます。
皇居前広場に行く馬車列 いわゆる投石事件は、NHKのカメラからは、松が死角となり、ほとんど確認できない 	〔実況アナウンサー交代〕 アナウンサー：めでたく結婚の儀を終えられ、初めて皇居を出られましたお車は日本晴れの皇居前広場にいよいよこのひと時、この時をお待ちした人々の目の前をお通りになろうとしております。お喜びの皇太子殿下ご夫妻です。皇太子殿下は、黒の燕尾服、美智子妃殿下は、ローブデコルテ、頭にテアラをおかぶりになっていらっしゃいます。 アナウンサー：両殿下のお乗りの馬車の色は溜め色、四隅には金色燦然たるランプも揺れております。ようやく緑の濃い常磐の松を背景に、お馬車は菊のご紋章を春の陽にきらめかせながら整然と掃き清められました玉砂利の上を進んでおります。 アナウンサー：およそ35万平方メートル、10万6000坪といわれますこの広場も、今日ばかりは12、3万人という奉祝の人々で狭いような感じがいたします。馬車列はこれから、馬場先門手前を祝田橋四つ辻を右に折れて、延々東宮仮御所まで8.8キロ

	<p>のコースにおよそ 50 分にわたる大パレードを展開いたします。常磐の松の木の間隠れに、馬車列は祝田橋をお通りになってこれから桜田門へと向かいます。</p>
<p>馬車列、祝田橋から警視庁前を通過 字幕 警視庁前（桜田門前）</p>	<p>〔実況アナウンサー交代〕</p> <p>アナウンサー：金色に輝き、そして白、赤と色鮮やかな馬車列は、間もなく祝田橋に差し掛かります。ただ今見えました先頭のお馬車が皇太子殿下ご夫妻のお馬車でございます。これよりお馬車は祝田橋を右に折れまして、凱旋濠に沿って桜田門、警視庁前へと進まれます。</p> <p>アナウンサー：馬車列の先頭は、真新しい金モールのグレープに身を包みました警視庁前衛騎馬隊でございます。</p> <p>アナウンサー：側面に菊のご紋章の輝く溜め塗りの馬車に召されました皇太子殿下ご夫妻。さすがお喜びをそのままに、にこやかにお応えになっておられます。まことに晴れやかにご幸福そうな両殿下でございます。お 2 人のお馬車が桜田門前をご通過になりました。</p> <p>アナウンサー：馬車列をお迎えする沿道の人々も、早くは 5 時過ぎから詰めかけたそうでございますが、沿道の人出は、東宮仮御所まで 8.8 キロの道筋におよそ 40 万人ということでございます。影の若駒 4 頭が引く皇太子殿下ご夫妻のお馬車でございます。お車は朱色でございます。6 頭立て 4 頭引きと申しまして、お馬車の前の 6 頭のうち後ろ 4 頭がお車を引いております。金モールの長い上着に、騎士帽をかぶり、そして白いズボンの御者は、宮内庁岩崎技官と卯月技官。今、両殿下のお馬車をお見送りして、なおも後ろ姿を追い続ける桜田門前の沿道の人々です。</p> <p>アナウンサー：お馬車には金モールの上着に、赤のチョッキ、赤の短いズボン、そして白の靴下に飾り靴と目も覚めんばかりの美しい服装をいたしました車徒が 2 人同乗申し上げております。ただ今桜田門前から馬車列のあとを追いまして、音楽隊のパレードが出発いたしました。</p> <p>アナウンサー：ただ今ご通過中の三宅坂、半蔵門への道筋には右手の桜田濠に沿いましてソメイヨシノの桜並木が続きます。桜田濠を隔てまして、右手に皇居、ただ今皇居においてのご両親陛下にも今日の佳き日をどれほどに喜びのことかと存じます。そして、皇太子殿下ご夫妻は、沿道の人々の心におそらくは次々と新しいさわやかな風を吹き込まれながら、東宮仮御所まで 8.8 キロの道筋を進んでおります。</p> <p>アナウンサー：ただ今ようやくお馬車は三宅坂へ差し掛かりました。</p>
<p>馬車列、半蔵門前を通過 字幕 半蔵門</p>	<p>〔実況アナウンサー交代〕</p> <p>アナウンサー：半蔵門側から眺められます桜田濠でございます。松の緑もひときわ色さえまして、沿道の溢れんばかりのにぎにぎしさに対照的な静かな風景でございますが、その右側、馬車列は三宅坂をご通過、間もなく半蔵門へと向かわれます。</p> <p>アナウンサー：先ほどございました、アジア各国の方々が一時〔滞在?〕いたします場所が左側、ビルマ・セイロン・インド・インドネシア・マラヤ・パキスタン・フィリピン・タイ・ベトナム・韓国・中華民国の国旗を掲げて奉祝の意を表しております。</p> <p>アナウンサー：早くも半蔵門には先頭の露払いの 2 騎通過いたしました。この日あるを期しまして、重要法案の審議を終えて自然休会に入りました国会。人々の打ち振ります旗。その両側は桜並木でございます。満開時は過ぎておりますが、その枝先にまだ花びらを残しておりましてひとひらふたひら馬車列に舞い落ちる風情は文字通り錦城花を添えるの趣がございます。</p> <p>アナウンサー：先ほどもちょっとご紹介申し上げましたが、3 列縦隊の 10 騎、そして、そのあとに皇太子旗を捧げ持ちます松林技官。馬車はただ今半蔵門に到着でございます。そして左側に折れまして、麴町 4 丁目方向へと向かわれます。左にカーブいたしまして、麴町 4 丁目方向、右手を高々と上げられ会釈されます皇太子殿下。ここから沿道の情景も一変いたしました。いわゆる街中となります。馬車列を奉祝する方々の雰囲気も何かくだけたような感じでございます。歩を早めまして、麴町 4 丁目方向、道路の幅もちょっと狭くなりました。左右両側をうずめず奉祝の方々は、石川県・</p>

	和歌山県あるいは奈良県辺りから上京されました団体の方々でございます。
馬車列、四谷見附を通過 	<p>〔実況アナウンサー交代〕</p> <p>アナウンサー：半蔵門方向をのぞんでいます。露払いの先駆が過ぎまして、お召しのお馬車です。ちょうどこの位置からは3本のテレビ塔が間近にのぞまれますが、この皇太子さまのご結婚の沿道に配置されましたテレビカメラが、NHKをはじめとしまして民間放送局を合わせますと100台を超すそうです。それから、外国のテレビ・ニュース映画・新聞・通信社の取材関係で50社を超すと言われております。先ほど宮内庁で、皇太子殿下が美智子妃殿下に和やかに話し掛けておられましたが、想像しておりましたよりもずっと和やかな感じがいたします。</p> <p>アナウンサー：お馬車の行列でございます。黒のドッキングの生地、金モールの警視庁騎馬隊。総勢48騎という騎馬でございます。お2方の周囲にその空気だけがまるで何か違う気体のように華やいだ空間を持っている感じがいたします。非常ににこやかなお2人。そしてお元気そうで、沿道が狭くて、それだけに一層熱狂的な雰囲気です。昨日まで美智子さんであったのが、妃殿下としてお馬車の上のお姿はいかにも堂々とお立派で、妃殿下としていかにも板に付いた感じがいたします。建物は、美智子妃殿下の出身の雙葉学園でございます。お馬車の妃殿下にも印象の深い四谷に、かすかな感愁が美智子妃殿下の胸中を横切ったのではございませんか。これからお馬車の列は四谷見附を通りまして四谷3丁目から左に折れて信濃口に向かうわけでございます。警視庁の後衛騎馬隊1騎ちょうどお馬車の列は沿道8.8キロの半分を過ぎまして、四谷3丁目に掛かろうとしております。</p>
馬車列、四谷3丁目を通過 字幕 四谷三丁目（富士銀行前）	<p>〔実況アナウンサー交代〕</p> <p>アナウンサー：四谷見附をのぞむ両側の歩道には、ぎっしりの人でございます。この四谷の町は、今も申し上げましたように両殿下の母校にもほど近く、また、殿下の初節句には、武者人形を差し上げ、また、このたびのご婚儀には、さまざまな品を調達してきたそうでございまして、日ごろはおっとりとしていますこの四谷の通り、今日初めてこのようなめでたい行列をお迎えするわけで、興奮と喜びの渦を巻いているところでございます。</p> <p>アナウンサー：先駆が見えてまいりました。あと200メートル、1分ほどいたしますと、殿下また妃殿下のお馬車が通るわけで、朝からお待ちのお年寄りの皆さんの姿も多くお見受けいたします。今日この目で、両殿下のお顔を、またお馬車を拝見したい、そしてまた、お祝いの日の丸の旗を振りたいという方々が、今か今かと待ち受けております。空には春のちぎれ雲が浮いておりまして、その間からやわらかな陽が漏れてまいります。</p> <p>アナウンサー：先駆の蹄の音が晴れやかに前を過ぎました。注意を与えておりますスピーカーの音が人々の心をいやがうえにも興奮を高めていくようでございます。</p> <p>アナウンサー：お馬車の列が見えてまいりました。遠くから急速に潮のように人々の歓呼の音が伝わってまいります。空には取材の飛行機のプロペラの音がだいぶ響いてまいりました。先ほどまで座っていらした方々も一斉に立ち上がって、これから殿下を妃殿下をお迎えするところでございます。</p> <p>アナウンサー：警視庁の騎馬隊に続いて、殿下のお馬車の赤い溜め色の車体が見えてまいりました。歩道の両側から、家々の窓から、こぼれるほどに溢れた人々の歓呼の声。皇太子さまと美智子さまは笑顔で手を上げて応えておられます。南の風はさわやかに、四谷の町々を抜けていきます。馬の蹄からは軽いリズムが弾んで、人々の心に今日の明るい気分をつくり出しているようでございます。まもなく四谷3丁目の町角に掛かるお馬車。これから左に曲がって神宮外苑から、常磐松へ向かうわけでございます。</p> <p>アナウンサー：皇太子旗が曲がりました。お馬車もやがて左へ切れます。これから神宮外苑を経て渋谷へ向かわれるわけでございますが、その途中の慶応病院の前には作曲家の神津善行さんと奥さんの中村メイコさんがいらっしゃるはずでございますが、お</p>

	いでになりますか。
<p>信濃町で待機する神津善行・中村メイコ</p> <p>字幕 信濃町（慶応病院前）</p> <p>字幕 神津善行 中村メイコ</p> 	<p>中村：はい。</p> <p>アナウンサー：あ、どうも。これまでの模様、すっかりご覧になったと思いますが、</p> <p>中村：はい、もう朝から。前半は我が家のテレビの前で、そして今ここに、もう胸がドキドキして困ります。</p> <p>神津：たいへんにお幸せそうなお2人なんですがね、とてもお喜び申し上げてるわけで、</p> <p>中村：先ほどテレビの画面で拝見したんですけれども、お馬車にお乗りになった時に殿下が美智子妃殿下の裾をととても気になさって直したりしてらして、ほんとうに私たち若い夫婦と変わらないお姿で、とっても涙がこぼれてなりませんでした。良かった良かったっていう気持ちです。</p> <p>アナウンサー：これだけの皆さんの歓呼に応えられて、ぜひともお幸せになっていただきたい、そういう気持ちが強くするんですけれども。</p> <p>中村：ほんとうにねえ。なんかやっぱり素晴らしい歴史が今ここに、そしてその歴史の中に私たちがこうやっているっていうこと、とっても幸せだと思います。</p>
<p>馬車列、信濃町を通過</p> 	<p>アナウンサー：馬蹄が響いてきたようです。</p> <p>現場アナウンサー：一番最初の露払いでしょうか。馬が2騎ちょうど今、慶応病院の前を通り過ぎて行ったところですよ。お馬車の列が見え始めたようです。この中継場所は病院の生け垣の上を借りておりまして、この病院では、昨日全部患者さんの診察を済ませまして、重症と軽症の患者さんを分け、軽症の患者さんだけ500人ほど病院の構内に設けられました台の上やあるいは歩道に出て、お馬車をこれから迎えようとしております。それに付き添っております看護婦さんたちの白いユニフォームが春の陽に非常に鮮やかに印象的です。お馬車の列、だいぶ近づいてまいりました。</p> <p>中村：ほんとうにねえ。そして、こんなにいいお天気になったことが私、嬉しくてしょうがない。やはり神秘的な気持ちにつながって、お天気がいいってことは。</p> <p>現場アナウンサー：だいぶ近づきましたね。</p> <p>中村：ほんとうにねえ。</p> <p>現場アナウンサー：お馬車が何といたしますかね、おとぎの馬車というんですか、おもちゃの馬車というんですか。</p> <p>神津：シンデレラ。</p> <p>中村：ほんとうに。何かほんとうにおもちゃの国、夢の国。それがあの、私たちがいつもおつかいや何かに通っているこの舗道を実際に通っていく、何か不思議な気持ちですね。</p> <p>現場アナウンサー：そうですね。神津さんは今朝から。</p> <p>神津：朝6時からずっと見てるんですけど。</p> <p>現場アナウンサー：テレビでは色が見えないのが残念ですね。</p> <p>神津：そうですね。非常にきれいな……。</p> <p>中村：黒と金モールとのコントラストがとてもきれい……。</p> <p>神津：馬が金と黒とだけで。</p> <p>中村：統一されて。</p> <p>神津：統一されて。</p> <p>現場アナウンサー：そうですね、お馬車が……。</p> <p>中村：いらしたわー。わあー。</p> <p>現場アナウンサー：一斉に日の丸の小旗が打ち振られます。やはり、お2人、にこやかに応えておられます。まあ、神津さんたちお2人は同じ年代のしかもご夫婦としてですね、もし今お馬車のお2人に何か申し上げるとしたら、どんなようなことをお話なさいます？</p> <p>中村：そうですね、私は……。</p> <p>神津：これから、ずっと、ぼくらの将来のね、天皇として、あれするわけで、ほんとうに末永くお幸せになっていただきたいということ。</p>

	<p>中村：美智子妃殿下には、おしゃれな妃殿下になっていただきたい。何か私たちの国の妃殿下からファッションが生まれるというような、そのおしゃれっていう意味が精神的にも非常に洗練されたスマートな奥様になっていただきたい。すべての点でそういう気持ちです。</p> <p>現場アナウンサー：そうですね。今日の妃殿下のお姿はもう満点でございましょうね。</p> <p>中村：はい。</p> <p>現場アナウンサー：お馬車が外苑の森のほうにとだんだん入ってまいりますけれども、お馬車のお2人の後ろ姿に向かいまして……。</p> <p>中村：そうですね。今この夢の国の馬車のようなきれいなものにお乗りになって、遠ざかって行っておしまいになったけど、これから先、なるべく遠ざからないね、うまく言えないけど、私たちの身近なスマートな両殿下でお待ちしております。</p> <p>神津：ほんとうにご健康、気をつけていただいて……。</p> <p>中村：さぞお疲れだろうと思います。今日なんかも、ほんとうにお元気で。</p> <p>神津：それだけをお祈りしております。</p> <p>中村：テニスをまたやっていただきたいわね。</p> <p>現場アナウンサー：では、カメラを神宮外苑に移しましょう。</p>
馬車列を待つ神宮外苑前の様子 字幕 明治神宮外苑 画面に一般人親子3人 	<p>〔実況アナウンサー交代〕</p> <p>アナウンサー：ただ今午後3時2分、外苑絵画館前の銀杏並木でございます。まずこの沿道をうずめる奉祝団体の人たちに、お馬車の行列を待つ気持ちなどを聞いてもらいたいと思います。</p> <p>現場アナウンサー：ご一家おそろいでございますね。今日はいいお天気になって、良かったですね。</p> <p>一般人（父）：ええ、そうでございます。昨日じゃ心配になりますよね。</p> <p>現場アナウンサー：そうですね。どちらからお越しになりましたか？</p> <p>一般人（父）：埼玉なんでございます。</p> <p>現場アナウンサー：埼玉。昨日の晩かなんか。</p> <p>一般人（父）：昨日、なんですか。わざわざ、お会いしたいと思ひまして。</p> <p>現場アナウンサー：そうですね。何時ごろこちらへはお着きになりました。ここへは、</p> <p>一般人（娘）：10時、じゃないや。11時半ぐらいなんですよ。</p> <p>現場アナウンサー：奥さんはおうちで、埼玉のほうではいつもお仕事やってらっしゃいますか？</p> <p>一般人（母）：子守をしたりお勝手をしたりね、いろいろやっておりますです。</p> <p>現場アナウンサー：殿下をご覧になるのは初めてですね。</p> <p>一般人（母）：ええ初めてですからね。今日はもう祝祭〔？〕していただきたいと思って。</p> <p>現場アナウンサー：ありがとうございます。</p>
ヘリコプターからの空中映像	<p>アナウンサー：ただ今NHK 特別ヘリが外苑付近の空から外苑の模様を撮影しております。一時は雲に隠れたと思われました太陽が、また燦々と輝き始めました。</p>
明治神宮前を通過する馬車列	<p>アナウンサー：明治神宮外苑の燃え立つような緑のマロニエの木の間越しにお馬車の列が見えてまいりました。今日の沿道中でも1番人出が見込まれておりましたここ神宮の外苑も予想通り奉祝の人垣でそれこそ身動き1つできない有りさまでございます。この辺りの人出は約12万。皇太子旗を先頭に、きらびやかな騎馬隊に取りまかれて近づいてこられますお馬車の上の両殿下に24万の瞳が今一斉に集中しております。</p> <p>アナウンサー：今、両殿下の溜塗りのお馬車が絵画館前から青山3丁目、青山口の電車通りに続く幅12メートル長さ300メートルの直線道路、美しい銀杏並木に差し掛かりました。6頭立て4頭引き、文字通り晴れの日。皇太子日和に相応しいきらびやかなオープンの儀装馬車行列であります。燕尾服の胸元には、大勲位菊花大綬章、シルクハットを右手に晴れ晴れとしたお顔の皇太子殿下。ダイヤを散りばめた宝冠、ティアラ、白いローブデコルテの上には、金鶏を縫い取りましたショール、美しくも気高</p>

	<p>いプリンセス美智子妃殿下。白地に花模様のお馬車のシートに陸まじく寄り添われたこの1組の明日の日本の象徴は、奉祝の人波の嵐のような歓呼にこやかに応えておられます。</p> <p>アナウンサー：青々と、芽吹き始めた外苑の銀杏並木をお召しの馬車の朱塗りの轍が、流れるように進んで行きます。奉祝の人々の列が乱れまして、一斉に走り始めました。それこそ絵に描いたようなお馬車の列でございます。金色燦然たるお馬車の列は、外苑の青山口をこれから右へ折れまして、青山6丁目へ向かってそよ風の巷を次第に遠ざかってまいります。</p>
ヘリコプターからの空中映像	<p>〔実況アナウンサー交代〕</p> <p>アナウンサー：青山口から4丁目、5丁目を経まして、ここ青山6丁目まではおよそ1500メートルの道のりでございます。この辺りは山の手の商店街が軒を連ねております。もちろん両側の歩道は、いっぱいの人、人、人でございます。今、空からお馬車の行列の模様を撮影しております。この辺りは登り坂になっておりまして、ここ6丁目のカメラからは、見ることはできません。それではここで、皇太子殿下も陛下のご名代としてご参列になりましたエリザベス女王の戴冠式を沿道でお祝い申し上げました横浜〔国立〕大学講師ヘルバードさんにお話をいろいろとうかがってみたいと存じます。江本アナウンサーどうぞ。</p>
<p>字幕 青山六丁目（青山学院前）</p> <p>字幕 A・J・ヘルバート夫妻途中、ヘリコプターからの空中映像や青山6丁目の映像を挟む</p> 	<p>江本：〔英語で質問し、答えを通訳する。以下、通訳した日本語だけ掲載〕非常に大きなものでございますから、日本と違いまして、人数もだいぶ多ございましたし、それから結婚式と、また戴冠式はだいぶ違ってまいりますから、その点ではだいぶ違うと思いますけれども、とにかく大きな感じでございました。</p> <p>江本：英国の場合はバッキンガムパレスからウエストミンスターアベールからバッキンガム宮殿まで、もうれつな行列でございまして、英国の場合には、テレビのカメラマンや、そういう方たちが皆さんウエストミンスターアベールの中に入ることに許されましたので、だいたいの人々は自分のご家庭でテレビを見ることによって、その儀式の模様を見たと思います。</p> <p>江本：それから、沿道にはいろいろ軍隊の人々がいろいろな色彩の洋服を着て、見えておりましたので色彩的にたいへん美しかったです。それから、いろいろ軍隊の人々は、地方から選ばれてまいりまして色とりどりの洋服に身を固めてたいへん美しいものでございました。</p> <p>江本：英国の戴冠式のありました時は、ちょうど雨が降りましたので、その時は人数もだいたいこの程度ではございましたけれども、戴冠式を、戴冠式の行列を見るために人々が1日中かかって席を占領したような有りさまでございました。</p>
<p>青山6丁目を通過する馬車列</p> 	<p>アナウンサー：ちょうど今、青山6丁目の交差点の辺り、先駆の騎馬が見えてまいります。</p> <p>アナウンサー：続いて、騎馬の列でございます。両殿下のお召しのお車は今、青山5丁目の辺りかと思われます。</p> <p>アナウンサー：沿道の歓声がだんだん、だんだんと高まってまいります。万歳の声が刻一刻近づいてまいりました。歩道から、2階から、そして屋上から、沿道の人々、お2人のお行列をお迎えしております。</p> <p>アナウンサー：画面中央、皇太子旗、翩翩と春風に翻っております。沿道を警戒いたします警視庁の警官、しきりにラウドスピーカーを持ちまして、「押し合わずに、押し合わずに」と沿道の観衆を制止しております。あと100メートルほどで青山6丁目でございます。拍手が湧き起っております。日の丸の小旗が揺れております。</p> <p>アナウンサー：皇太子殿下、美智子妃殿下おめでとうございます。その気持ちを万歳の声に託しまして、今、小旗がちぎれるほどに揺れております。にこやかに、右の、左のお祝いの人々に手を振りあるいは会釈をされております両殿下。今ちょうど青山学院前辺り。この青山学院前の歩道には、妃殿下の母校聖心女学院の在校生・卒業生お</p>

	<p>よそ 800, 馬車のお列をお待ち申し上げております。</p> <p>アナウンサー：さて、ヘルバートさんに1つですね、今、目の当たりにご覧になりました、そのお2人のご様子など江本アナウンサーからまた、うかがっていただきたいんですがございますが、どうぞ。</p>
再び、ヘルバート夫妻	<p>江本：〔先ほどと同様、英語で質問し、通訳する〕数秒前に通過いたしました幸運、皇太子殿下と皇太子妃殿下を拝見いたしましたたいへん感激いたしました。また、この行列を、パレードを見るために集まった人々のその嬉しそうな眼差しからほんとうに国民に愛されていることを知って、たいへん嬉しく思いました。</p>
八幡通りに入る馬車列	<p>アナウンサー：左に折れまして、いわゆる八幡通りに行列が入っております。この辺りから道はやや狭くなっておりまして、晴れ晴れとしたお2人のこのお顔。</p> <p>アナウンサー：この八幡通りを左に折れ、さらにもう1つ左に折れますと、いわゆるお2人のご新居、東宮仮御所でございます。馬車列はいよいよ東宮仮御所に近づいてまいりました。</p>
馬車列、東宮仮御所に到着へ	<p>〔実況アナウンサー交代〕</p> <p>アナウンサー：こちらは、今日の馬車列のパレードの到着……〔録画途切れる〕。……美智子妃殿下ご夫妻、お住まいになられます東宮仮御所にあと2, 300メートルでございます。お馬車の列が見えてまいります。警視庁の騎馬隊10騎が、ただ今、左に折れました。菊花のご紋章燦然と春の陽に輝く皇太子旗、松林技官が奉持しております。</p> <p>アナウンサー：お馬車が見えてまいりました。6頭立て4頭引きのお馬車でございます。お馬車が差し掛かりますと、さぞ万歳の声、耳を聳せんばかりかと思いましたが、意外に小旗がただ打ち振られるだけで、それほど大きい万歳、歓呼の声はございません。地元の皆さん方のお出迎えでございます。馬車はすっかり歩度を落としまして、ゆっくりとただ今、東宮御所、仮御所のご門前に差し掛かりました。お馬車が見えてまいりました。沿道8.8キロに及ぶ大パレードにもお疲れのご様子を見せず、それでもややほっとした面持ちの両殿下でございます。宝石を散りばめて燦然と輝くティアラ、宝冠、ただ今、マイクロホン前をご通過、まことに幸せそう、まことに幸福そう、ほんとうに晴れ晴れとしたお顔のお2方でございます。</p>
門の中に入った馬車列、皇太子夫妻が東宮仮御所に入る	<p>アナウンサー：今、馬車が東宮仮御所のお門に入りました。供奉いたします第一供奉の車には山田侍従長、それから牧野東宮女官長が乗っております。ただ今、お2方の馬車は門を入りまして、1回Uターン。これから玄関に着くところでございます。玄関には先ほど宮中から先に帰ってまいりました戸田侍従、名和女官など皆さん方がお出迎えでございます。ただ今、Uターンいたしましたお馬車、ビタリと東宮仮御所のご門前にご到着でございます。ご到着になられました。お待ち申し上げました方が馬車の扉をただ今、お開けいたしました。すでに御所の玄関の階段にはえんじの絨毯がひかれております。牧野女官長が進み出ました。それから、妃殿下をお助け申し上げて、両殿下が御所の中にお入りになるわけでございます。</p> <p>アナウンサー：黒木侍従の姿も見えるようでございます。山田東宮侍従長も馬車のお側にまいりました。ただいま妃殿下、馬車をお降りになられました。続いて皇太子殿下、お2方ともただ今、馬車をお降りになりまして、玄関からお入りでございます。今度は皇太子殿下が先、妃殿下がおあとにつきまして、ただ今、玄関の中にお2方お入りでございます。ロープデコルテの妃殿下の姿が玄関に消えてまいりました。こうして、中にお入りになりました両殿下は一旦御休所でお休みになられまして、やがて正4時に1階のただ今、見えております玄関の上、いや、1階の奥の大食堂で、いわゆる供膳の儀という席にお着きになるところでございます。</p> <p>アナウンサー：沿道にはまだ、さりもやらぬ群衆が警官の制止に、わずかに線の中に入りまして、何とかして一目両殿下が中にお入りになるところを、拝見しようということでございますが、警官の制止にあいまして、まだ列は乱れておりません。ただ今、</p>

	<p>映っておりますのが、今晚三日夜の餅が飾られます2階の、玄関の真上にございますご進講室でございます。先ほど申し上げました供膳の儀、これはほんとうのお2方だけで水入らずで杯を交わされるんだそうでございます。殿下のお酌で皇太子殿下が〔以下言い換える〕妃殿下のお酌で一献召されるそうでございます。まだお馬車はそのままでございます。そのあと夜9時になりますと、先ほど申し上げました三日夜の餅という儀が行われまして、これは甘露寺掌典長ご夫妻がお付き申し上げ、妃殿下のお歳でございます24個の小さい餅に切り分けまして、夜御殿の間にお飾りになる儀式だそうでございます。さりもやらぬ沿道の群衆。馬車はまだそのまま玄関に横付けになっております。</p> <p>アナウンサー：それではほんとうに皇太子さまおめでとうございました。ほんとうにおめでとうございます。それではもう1度カメラをスタジオに移しまして、スタジオでテレビをご覧になっていらっしゃいます池田さんにおうかがいしましょう。</p>
<p>再びスタジオ。三宅艶子に加わっている。左から池田弥三郎、三宅艶子、岡本愛祐の順</p> 	<p>池田：しかし皇太子さまもお疲れになったでしょうね。ずいぶん手をずっと振っていらしたままでね。これで今日お天気が良かったんで結構でしたけれども、馬はいかがですか。なんか私は初め出発した時、ずいぶん心配で、ご無事にということをお祈りしてたわけですけど。</p> <p>岡本：たいへん結構にいました。</p> <p>三宅：ずいぶん、馬なんかね、ほんとうに皆んな、心配しておりましたね。</p> <p>池田：なかなかテレビもやっぱりテレビでこう拝見してるとよろしございますね。</p> <p>岡本：実にいいですね。</p> <p>池田：ま、苦勞なすってるんでしょうけども。</p> <p>岡本：ずーっと、一貫して拝観できますからね。</p> <p>池田：沿道の群衆の状態でございますね、あんまり万歳の声が聞こえませんかでございますね。</p> <p>岡本：そう思いましたですね。あのこの前の、今の陛下のご結婚の時お供したんですが、その時には万歳もいけないということだったんです。で、お出ましの時はですね、つまり宮城へお上がりの時は、万歳なかったんです。お2方お揃いで赤坂見附へお帰りになった。その時は期せずして万歳の声が起こりましてね。</p> <p>池田：馬が暴れるのをだいたい万歳が心配はしておりましたですね。だいたいあのスピーカーでいろいろ注意をしていたような沿道の声が聞こえておりましたね。</p> <p>岡本：そうですね。</p> <p>池田：2階なんかからは当然、前は見られなかったでしょうけど。</p> <p>岡本：ええ見られなかったです。前は閉めろということだったんですね。</p> <p>三宅：全部窓は閉めなきゃいけないかったんですね。</p> <p>岡本：あれは前年ですね、不祥事があったもんですから、あれからきつくなったんです。</p> <p>池田：あの難波大助の。そんなことございましたね。</p> <p>岡本：あの前はですね、ご渡欧からお帰りになりましてね、外国の状況をご覧になりましてね、警衛はもう国民と自分とを遠ざけることになる。それはいかんから極力警戒は厳重にしちゃいかんということになったったんですけど。それでもう実にね、その警戒は薄かったんです。そしたらあの事件が起こったわけです。でまあ、これはですね、内閣は辞めなきゃならないことになりましてね、たいへんなことになるもんですから。また厳重になったんです。</p> <p>三宅：ああ、そうですか。</p> <p>池田：しかしあの、どうございましょうか。今あの、まあ、これから供膳の儀があって、今日の非常に盛りだくさんといいますか、たいへんお疲れだろうと思うんですが、1日の行事が終わるわけですが、まあ今拝見して、皇室の将来のことなんか、我々いろいろ考えますですけどね。先ほど、この行列の前にいろいろお話をうかがったのと続きますけども、だいたい皇室に関するいろんなお噂っていうのは、国民の耳から長い間、国民をシャットアウトしてたために、かえって伝説のようになりましてね、</p>

誤解してる面もずいぶんあるんじゃないかと思うんです。そういう点はきっと、岡本さんなんかずいぶんこういう機会に国民皆さんに言って〔言い直す〕聞いておいてもらったほうがいいと思うことがずいぶんおありじゃないかと思いますが、少しそれをうかがわせてもらえたらと思います。

岡本：今の陛下はですね、大正10年にご渡欧からお帰りになしましてね、そして11年に摂政におなりになったんですが、非常なご抱負をお持ちになしましてね。国民との間にですね、もっと親しくならなきゃいけない、国民の中の皇室じゃなきゃいかんということで、極力いろいろなさいまして、で、まあ、今日は、その国のほうのことは省きまして、ご家庭のご生活としてもですね、従来のご家庭の、宮中のご家庭のご生活のあり方っていうものは変えたいっていうことでですね、改革をなすったわけなんです。その1つがですね、例の局制度をご廃止になったと。これは何でもなかったことのようにですけど、大改革と思うんです。ご承知の通り局制度というのは、奥に、つまりご家庭に奉仕する、今の女官長をはじめですね、その時にはいろいろな名称がありまして、典侍とか、掌侍とか、それから命婦と、それはまあ高等官なんですけどね、その下に女嬪がこうあって、階級制度になっておりました。それが全部、局といって百軒廊下でつながっておりますが、その局に入っておって、皆、未婚の方で、小さい時から、

池田：結婚なさんない？

岡本：そういうわけです。お小さい時からそこに、育った人なんです。だいたいが京都公家ですね、子弟なんです、子女なんです、それがまあ、ご奉仕しておった。それをやはり、「そういうことはいかん」と。「人権蹂躪だ」ということでですね、華族と言わずですね、平民と言わず、適任者を女官にする。そういう伯爵以上でなければ、命婦に〔言い直す〕典侍にはなれんとか、そういうことを全部お廃止になりましたね、女官1本になったんです。だからしかも、島津女官長なんて人は夫がおりましてね、基本的に、しておられましたね。それからほかにも未亡人の方が多かったです。

池田：それはまあしかしずいぶん思い切った……。

岡本：思い切った。それも皆通勤でございますからね、通勤制度。

池田：もう局にいらっしゃらない。

岡本：そういうわけなんです。それからですね、もう1つは、先ほどもちょっと触れましたけども、お子さまはですね、自分で育てなきゃいかんと、自分の親子の愛情を味わわない者がすな、国民との愛情を築かれないというご宗旨でですね、それでお手元でお育てになったわけです。それは先ほども申した通りでございます。皇太子殿下も3年間はお手元でお育てになったんですが、自分はですね、生まれたらすぐに人に預けられたと。そういうことは、自分の子供にはさせたくないと。でまあ、皇太子殿下は3年お経ちになってほかへお出しになった。その時は非常に両陛下は「いけない」と、「自分のところで育てたい」というご宗旨だったんですけど、ついにお負けになったわけです〔笑〕。

池田：こういうことをまあ、うかがっていいかどうか分からないんですが、この岡本さんがいらっしゃってるからちょっとおうかがいしたいんですが、あの、乳母〔めのと〕と申しますですか、お乳の方がお付きになりますですね。皇后陛下が、現在の皇后陛下がですね、お育てになった時に、しかし、ご自身でお乳もお差し上げになるわけでございますか？

岡本：そういうわけです。それはですね、お休みになりますまでですね、朝お目覚めになってお休みになりますまでは、ご自身の乳を差し上げになるわけです。これは前にないことなんです。

三宅：前にはそれもなかった。

岡本：それもないんです。皆、乳母がですね、2階に上がっておりましてね、それが交代でお乳を差し上げた。ところが今の皇后陛下からはですね、ご自身でお乳をお授けになって、ただ深夜はですね、乳母を差し出した。こういうことになってるんです。

	<p>池田：あの三宅さんに来ていただいたんですけども、やっぱり今あの、これからまあちょうど、今日は1番の大きなまあ行列を拝見して、これが1番大きな行事だと思いますが、ジャーナリストに申しましてね、これからまあだんだんに、今までの皇室に関する皇太子両殿下中心のいろんな、まあジャーナリズムの取り上げ方ですね、そういうようなことがだんだんこれから反省期に入るだろうと思うんですが、そういうことで、お考えになることがありじゃないかと思うんです。</p> <p>三宅：今、行列を拝見してますとね、2方がなんかとっても、お可愛らしいって言っては失礼なのかもしれませんが、とても形式的じゃなく、ちょっと戸惑ってらっしゃるようなところがありましたでしょ。たいへん無事に行了きましたけど、そういうところ、とても自然だったと思うんです。そのまんまのものが、またこれから先いろんな生活なさるわけですけどね、やっぱり人の好奇心とか、それから昔ながらのなんか考え方とか、いろんなものが入り混じって、そして、入り混じったもので別のものをつくってしまいますからね。そういうことはやっぱり周りの人が全部考えなきゃ、これから、個人の生活っていうものを考えてあげないといけないと思うんです。</p> <p>池田：どうでございましょうか。岡本さんなんかお考えになって、まったく民間からお入りになって、宮廷のいろんなしきたりでございますね、そういうようなことで相当、まあ意地悪なことにはないにしてもですね、いろいろまあ「ああだ、こうだ」ってことも、あるかと思うんですけどね。しかし、いかがでしょうか、とくに妃殿下が、もちろん十分以上にそういうご生活、立派にこなしていられっしゃるんじゃないんですか。そんなに難しいものでございましょうかね。</p> <p>岡本：難しいことはですね、神様のお祀りですね。今日、賢所お参りがありました。神事はですね、これは昔からの伝統ですね、尊んでやってまいられておりますから、これはやむを得ないと思います。そのほかのですね、公の外国の使臣とのご交際とかですね、それからいろいろ、皇太子妃殿下がまた皇后陛下におなりになってからのですね、赤十字のご職務とか、まあいろいろございますわね。こういうことは、まあ、窮屈な思いをなさることはやむを得ないと思うんです。皇太子妃殿下におなりなり、また皇后陛下におなりになってからですね、それはまあ覚悟なさっていられっしゃると思うんですよ。ただね。</p> <p>池田：それはまあ、あれですよ、民間でもね伝統的な古いうちもあるわけですから。</p> <p>岡本：そうなんです。やむを得ないですから。しかしご家庭生活についてはですね、私はちっともご心配いらんと……それは現在の皇后陛下がお入りになった時、やはり同じ心配があったんですけど。天皇陛下がですね、ああいうお優しい、非常にご配慮の深い方、思いやりの深い方でございますからね、実に明るい暖かいご家庭でした。笑い声がですね、いつも絶えないというようなご生活でした。でまあ、もちろん遊んでばかりいられっしゃるわけじゃないんで、いろいろのお仕事があります。しかしその余暇にはですね、お好きなピアノをなさいますね、それも音楽もお上手ですからね、皇后陛下は、それもなさいますし。それから、ご運動を願いましたから、一緒に、初めは軟式をおやりになった、1年ほど。両殿下は、われわれお相手をいたしましてね、それから硬式になりましたね。</p>
<p>東宮仮御所の外観の映像</p> 	<p>池田：これは仮御所でございますね。まだ今の、今度、供膳の儀が4時から始まるところで、この仮御所は岡本さん、おいでになりました？</p> <p>岡本：これはですね、元は東伏見の宮さまのご別邸として宮内省が建てたんですよ。それでね、これは建てて、未亡人の、でございましたからね、宮さまでございました。お1方の住まいとして、けっこう手狭です。それはやはり、戦災で大破しましてね、私、内匠頭の時にこれ直したんですよ。</p> <p>池田：ああそうでございましょうか。今やっぱりご不自由でございましょうね、少し。</p> <p>岡本：ご不自由でしょうね。建て増しなさってるようですけどね。</p>
<p>皇居前広場の映像</p>	<p>池田：ああそうでございましょうか。なかなかしかし、将来なかなか難しい時代でもあるし、国民との交流もなかなか難しいんですけども、でも、とにかくああいう妃殿下がお</p>

	<p>入りになったってことは、一部にいろんな考え方あるかもしれないけども、とにかく大多数の国民っていうのは、皇室と自分たちと非常に近くなったような気持ちが皆んなしてるんじゃないかと、思うんですね。その点はほんとうに心からお祝いできるように思います。</p> <p>岡本：そう思いますね。</p> <p>池田：この今までおうかがいした、先ほど岡本さんからおうかがいしたことでございますがね、今まではそういうことが、宮廷のそういうことが、ご改革があっても、そういうことが我々の耳にちっとも入ってきませんでございました。</p> <p>岡本：それにですね、そのだんだんまた、例の軍部の息が強くなりましてね、それがだんだんまたですな「そんなこっちゃいかん」と、神格化を戻そうとして、なりましてね。私どもずいぶんですね、あとで陸軍大臣になった阿南君とかですね、あれが大佐時代、ずいぶん喧嘩したもんですよ。</p> <p>池田：三宅さん、あの若いとくに妃殿下に何か一言、花向けの言葉と申しますかしら、何かお祝いの言葉をつっおっしていただければ。</p> <p>三宅：やっぱりあの、いろんな日本のこういう伝統的っていうのも、日本は外国の習慣だの日本の習慣、いろんなこと事情からいっても複雑でございましょう。ですから、そういう所に、入ってらしたらなかなか大変でしょうけども、今まで持ってた気持ちはずっとそのまま持ち続けて、そしてそれから成長していらしていただきたいと思うんです。なんか特別に変わったとお思いにならないことがかえって、2方のお幸せじゃないかしらと思うんです。</p>
スタジオに戻る	<p>池田：やっぱりもう、しばらくなんかさりげないご生活をしていただいたらと思いますね。あんまり我々が喧しく言わないで。先ほど緒方さんもそういうことおっして、皆んないろいろ今、うるさいだろうけども、しばらくそれ黙って聞いて、そのうちに心に残るものが、ダイアルがこう合うようにね、言葉があるだろうから、ということでした。</p> <p>池田：どうもいろいろと長い間ありがとうございました。</p>
<p>字幕 出席 山王病院小児科医長 緒方安雄 元東宮侍従 岡本愛祐 評論家 三宅艶子 慶応大学教授 池田弥三郎</p> <p>再びワグナー「ニュルンベルクのマイスタージンガーより第1幕への前奏曲」</p> <p>字幕 沿道ゲスト 神津善行 中村メイコ夫妻（信濃町） 横浜国立大学講師 A・J・ヘルバート夫妻</p> <p>字幕 実況場所 皇居、宮内庁玄関 二重橋 皇居前広場</p> <p>字幕 警視庁前 半蔵門 四谷見附 四谷三丁目</p> <p>字幕 信濃町 明治神宮外苑 青山六丁目 東宮仮御所</p> <p>字幕 馬車列沿道実況中継</p> <p>字幕 終 NHK</p>	

